

日本人の『取り扱いマニュアル』を 全世界に知らせるべきだ 「日本人の臨界点」を広報しよう

中国人は「日本人を騙すのは簡単だ」と思っている。
それは間違いない。日本人は騙されやすいのだ。
日本人でも騙されれば腹が立つ。
おとなしい日本人でも何度も騙されれば「堪忍袋の緒が切れる」。
最後には憤怒の形相で怒りだす。
そうなると「もはやこれまで」「刺し違えても」と一旦（いったん）覚悟したらそれまでだ。
自分は「死ぬ覚悟」なのだから自分自身にとっては「正義」であり「真理」なのだ。
その反撃を誰が咎めようというのか。
だから、はっきり言う「日本人は怒らしてはいけない」。
そのほうが中国人のためなのだ。いや、日本人全体、世界人類のためでもある。

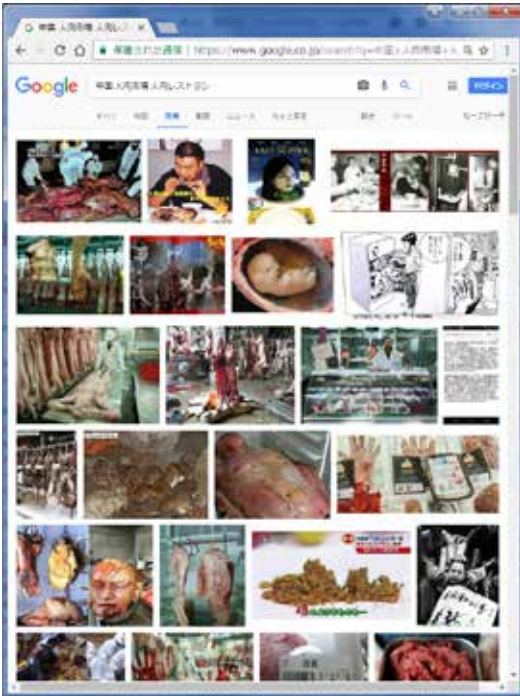
中国共産党政府は政権に都合の悪い情報を封鎖し、軍事費に勝る武装警察の治安維持費をつぎ込み、国民を抑え込んでいる。抑え込まれている中国人民は日本人と見事に違っている。

ワイズ3月号に書いたように、《中国人を見たら悪いやつと思え！『厚黒学』に見る中国人の「エゴイズム」「恥知らず」「責任感がない」だから中国人は嘘をつく。》



で紹介したように「中国共産党政府」と「中国の人民」は同質であり、抑え込んでいる中国人も抑え込まれている中国人民も全く変わらない。

「中国、人肉市場、人肉レストラン」のキーワードでグーグル検索をかけてみるとよい。



そこにはおぞましい「人肉食文化」が花開いている。

「遭難して」「飢饉で」「飢餓で」・・・やむを得ず死んだ人の遺体を食用にしてしまった・・・、というのではない。

「2本足の羊」という食用肉として堂々と売られ、「人肉レストラン」が存在するのは世界広しといえど中国社会だけではないのか。



食料品店で普通に売っている胎児の脳の瓶詰め



胎児の脳の瓶詰め

今も売れている ベストセラー『厚黒学』

図々しく、厚かましく、腹黒く、賄賂（ワイロ）漬けの中国社会。騙し討ち、卑怯なことができないやつは生き残れない。人生の敗残者になりたくなかったら、「徹底した悪になれ」。

こう説いているのが『厚黒学』である。『厚黒学』は、清朝末の儒学者「李宋吾」の論考を纏めた学問であり、何度も中国のベストセラーになった本でもある。

中国人が『厚黒学』なら 日本人は 「怒らしてはいけない」

中国共産党執行部はこの「日本人を怒らしてはいけない」という「日本人の取り扱いマニュアル」をよく知るべきなのだ。

また、日本の外務省は大型予算を組み、世界に向けて『日本人の取り扱いマニュアル』を宣伝し、周知、徹底するべきだ。難しいことではないありのままを伝えておけばよいだけなのである。

『待ってました!』で反撃開始!!

◆小学生のころ、田舎町の繁華街に映画館が5軒ほどあった。

東映、大映、松竹、日活、洋画専門館だが「東映」と「大映」は日本の任侠もの、いわゆる『ヤクザ映画』を上映していることが多かった。隠忍自重、耐えて、耐えて、我慢に我慢して臨界点に達すると、



「爆発だ!」。こうなると、もう止まらない。《「止めてくれるなおっかさん」・・・高倉健の世界だ。》真っ暗な映画館の中に「待ってました!」の音が掛かる。

韓国の軍港で

これから、ご紹介するお話は日本の周辺国が《「日本人は何時怒り出すのか」を心配している》は実に率直に「日本人の本質」を表現している。

元海軍中佐の伊藤祐靖氏がイージス艦『妙高』の航海長(当時33歳)の時に「韓国海軍50周年国際観艦式」が釜山の近くの海軍基地であり、韓国の軍港の街を歩いていた時の事。

そこで「厨房から出てきた韓国女性」が「貴男は日本海軍の将校の方ですね」と流ちょうな日本語で、「奇妙な質問を受けた」そうである。

「日本人に聞きたいことがあります」という。

その女性は「今ね、この辺のと年配の人は、日本人が怒り出すのではないかと心配をしている」。





海上自衛隊 元二等海佐 伊藤 祐靖氏

なぜ心配しているのですか?と訊く。

「貴男、パハンを知っていますか、八幡と書きます」

「知りません、日本の製鉄所のある場所の地名です。」

「それでは、カイラギを知っていますか、漢字では海乱鬼と書きます」

漢字の意味からだいたい想像はつく、鬼という文字が入っているからだ。

しかし、はっきりとした意味は分からない。

すると、「八幡 (パハン) も海乱鬼 (カ

イラギ) も日本人のこただ」という。

収穫期を過ぎたころ、昔は手漕ぎの船で日本から貿易に来ていた。

日本人は非常に「お人好し」なので、この辺の人はみんな日本人を騙した。

品物はみんな騙し盗られて日本人は何もなくなってションボリ帰っていった。次の年もまたその人が来る。また同じ手口で騙されてションボリ帰っていく。それを3~4回繰り返し、また騙すと日本人はいきなり怒り出し、自分の服を脱ぎ捨て、自分の服と乗ってきた舟に火を点けて燃やし、禪 (ふんどし) に日本刀を差して、自分の見えている範囲の人を善悪区別なく全員斬り殺す。そして、最後は切腹して果てる。

日本人はおとなしくて騙しやすいがそれをいいことに騙していると、突然、怒り出して誰も手をつけられないほど反撃される。そして最後は自ら腹を切って死ぬ。



だから、日本人は騙してはいけない、とよく言われている。

こちらの人達が心配しているのは世界中で日本人を虐め（イジメ）ているから、そろそろ日本人が怒り出すのではないかと心配なのです。

同じような話はフィリピンのミンダナオでも聞きました。

「日本人はお人好しで騙しやすい」

「いい気になって騙していたらひどい目にあっただ」という話はたくさんありました。

ラオスで聞いた話

『ラオス』のビエンチャンという首都にいたとき、ある夜、一人で飲んでいたら地元の若い人が英語で話しかけてきた（今のラオスは経済的に豊かになって若い人はほとんど英語が話せる）。

話は「どこの国の人が好きか？」ということになり、その青年は「フランス人」と「中国人」が嫌いだ、という。

「フランス人」は『ラオス』をまだ植民

地だと思っている。上から目線で偉そうにしやがって・・・。

でも『中国』はもっと嫌いです。「中国人」は威張っているし騙すんです。

「フランス人」は威張っているだけで「中国人」のように騙しはしない。

じゃ「日本人」を「ラオス人」はどう思っているのか？

ここには、「日本人」はほとんど来ないので初めて会いました。

ただ、私の祖父が言っていたことですが、日本人は非常に騙しやすい。

同じ手口で何度でも騙せるのだけれど、いい気になっていると、必ず殺しにくるから、絶対に騙してはいけない、と爺さんが言っていました。

チャーチルの回顧録

同じような話は何とイギリスの「チャーチル首相」の回顧録にもあるので驚きだ。伊藤祐靖氏は同じような話が『チャーチルの回顧録』に有ったということを知り、





チャーチル イギリス元首相

調べてみると

チャーチルは「友人への手紙」の中で、こう書いている。

「日本人は無理な要求をしても怒らず、反論をしない。笑みを浮かべてこちらの要求をすんなり呑んでくれる。

しかし、これでは困る。反論する相手を説得し、ねじ伏せてこそ政治家の業績になるというものだからだ。

そこで今度はさらに無理難題を要求してみると、これもまた呑んでくれる。

こうなると議会から『今まで以上の要求をしろ』と言ってくる。無理を承知でそれを言うと、突然、日本人はまったく別人のような顔になって、『これほど譲歩に譲歩を重ねたのに、こんなことを言うとは

あなたは話の分からない人だ。こと、ここに至っては、刺し違えて死ぬしかない』と言ってつかかってくる。

彼がこう書いているのは、日本が英米に宣戦布告をした直後のことである。

当初、チャーチルは東南アジアに南進してきた日本軍の実力をナメていた。

イギリスが誇る東洋艦隊には新鋭戦艦の「プリンス・オブ・ウェールズ」と巡洋戦艦「レパルス」がある。これに対して、日本の南方部隊には「金剛」「榛名」という、艦齢27年の旧型戦艦しかない。この両者が対決すれば、かならずイギリスが勝つというのが「当時の常識」である。

しかし、日本は新戦法を用意していた。それが航空部隊による艦船攻撃という方法で、海軍の陸上攻撃機（一式陸攻と九六式陸攻）八五機が魚雷と爆弾による攻撃を実施し、わずか二時間ほどで「プリンス・オブ・ウェールズ」は撃沈され、「レパルス」も転覆して海中深く沈んでしまう。

つまり、イギリス東洋艦隊は壊滅してしまっただけである。

チャーチルはこの知らせを聞いて、先ほどの言葉を書いているのだが、彼としては「日本人が最初から、これだけの実力と覚悟を持っていることをこちらにそれとなく教えてくれていたら、妥協する余地はいくらでもあった。それな

のに日本人は黙って何も言わないから、我々は大変な目に遭った」と言っているのである。



同じ東洋人でも「中国人」と「日本人」は全く反対なのだ。西洋人はその真実を知らない。

伊藤祐靖氏はチャーチルまでもアジアの反応と同じなので笑わずにいられなかったようだ。

日本の外務省は日本人の『取り扱いマニュアル』を世界に発信してるのだろうか、非常に疑わしい。

韓国、中国、北朝鮮、ロシアあたり、もめごとが起きそうな国々に外務省は「われわれ日本人を甘く見ると火傷をしますよ」ときちんと広報をしないと不要な摩擦が起きかねない。

とりあえず、緊急の課題は中国が盛んにチョッカイをかけている沖縄の尖閣諸島に国家の意思を示すことではないか？

中国はもっと日本人に神経を使ったほうがよい。日本政府は「尖閣に誰か住まわすなり、施設を造るなり、「中国のスケベ心」を撃退する手立てを講じるべきなのだ。

